

## 原田てつよ議員



### 障がい者施策について

**議員** ①障害者サービス等利用計画、障害児支援利用計画について、現時点での進捗状況をたずねる。

②一般就労につながった障がい者に対してのその後の支援についてたずねる。

③本市の公共機関における知的、精神、発達障がいの人々の職場体験並びに西備支援学校の実習生の受入れについての現状と考えをたずねる。

④障がいに対する正しい理解のための職員研修、啓発の現状をたずねる。

**健康福祉部長** ①11月末現在、障害者サービス等利用計画については、受給者数401人に対し作成済みの

人数が141人となっております。障害児支援利用計画については、受給者数102人に対し作成済みの人数が70人となっております。

②現在の障害者就労促進プランナーが前任者から引き継ぎ本人や会社と面談するなど対応している。

**市長** ③実績はないが、今後、職場体験等の要望を聞き、関係機関と連携をとりながら受入れを行っていきたい。

④新規採用職員の研修時に笠岡ふれあいスポーツ大会への参加や社会福祉法人での福祉実習等を行い、障がいについての理解を深めさせている。また、採用後5年程度経過した職員に対しても、人権啓発指導者講座を実施し、障がい者の人権問題について学習する場を設けている。

**議員** 今サービスを利用していないが今後利用しようと考えている方、例えば親が高齢になって一人になったらサービスを受けないと

どうにもならないという方には今後どのようにしていくのか。

**健康福祉部長** まずは現在サービスを利用している方を優先させたい。今後利用しようと考えている方にはサービスを受ける相談に来られるので、その都度個別に相談していきたい。

**議員** 行政として積極的な声かけをしないのか。

**健康福祉部長** もちろん今後その必要もあると考えている。

## 森岡聰子議員



### 防災における男女共同参画について

**議員** 女性防災リーダーを今後どのように養成し増やすのか。

### 人口減少歯止め施策について

**市長** 地域の防災リーダーの育成として、市内の自主防災会に対し防災士資格取得研修講座補助事業を実施しており11月末現在まで11名の方が資格を取得している。しかし、いまだ女性の方の申し込みがないのが現状である。来年度から範囲を拡大し、市内の各女性団体や婦人防火クラブ委員の方々にも資格を取得していただくよう働きかけたい。

**議員** 消防団員の数が減っていると思う。その分女性消防団員の方が増えていけばいいと考えるが、その施策を何か考えているのか。

**消防長** 市の行事等で、団員募集のチラシを配布し加入促進を図っている。

**議員** チラシも必要だが、地域へ出向き女性消防団員の活動について、本市だけでなく、他市の事例も含めながら啓発してはどうか。

**消防長** 若手女性消防の研修会等を参考にさせていただき、地元で行う避難訓練等を通じて、確保したい。

**議員** 既に日本は人口減少時代に突入し、将来の存続すら危ぶまれる自治体もある。その対策として地方中枢拠点都市構想があり、本市も倉敷市を中心とする圏域、福山市を中心とする圏域に属している。その中の福山市を中心とする「びんご圏域ビジョン骨子(案)」には、農林水産業の活性化等を掲げているが、耕作放棄地を抱える本市の地域での耕作放棄地の取組みをたずねる。

**市長** 農地の集積や担い手の確保等、国、県の補助制度を中心として耕作放棄地の抑制と解消の両面から対応している。

市独自の施策としては、耕作放棄地の解消のために、草刈りを行う団体に対して、市が所有する草刈り機を貸し出しており、より多くの団体に有効活用していただくよう周知に努めたい。